大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

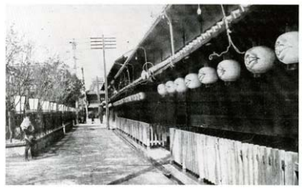
大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

天下一の花街・大坂新町を歩く
～夕霧太夫（ゆうぎりだゆう）の面影をもとめて～

徳川幕府によってわが国で最初に公認された遊郭のまち・新町。17世紀初めの大坂城再建時から1956年の国法による禁止がなされるまで350年にわたって、天下一の花街としてその名を轟かせました。いま、その名残りは全くありませんが、どこかしなやかな風情が感じられるのは、まちの記憶のせいでしょうか。

① 新町の始まり

秀吉が天下を統一して大坂に城を築き、大坂のまちの建設をはじめたころ、戦いに疲れて大坂に集まった武士たちに大坂の色里を公認した。これが遊郭の始まり。その後、大坂の夏の陣で崩落した大阪城を二代徳川秀忠が再建した。再建工事に集められた各藩の武士たちのために、風紀の乱れを案じた大坂城主松平忠明が散在する遊所を一か所に集めた。これが公認遊郭・新町の始まりである。起源は京都嶋原、江戸吉原よりも古いといわれる。江戸時代より各地の公認・非公認の遊所の比較が行われてきたが、新町は東の大関（最高位）であるという記録もある。このあたりは芦原の湿地帯で海へ水路が続いていた。西鶴の浮世草子、近松の浄瑠璃などにたびたび描かれ、多くの文人が訪れている。


新町九軒桜と吉田屋（参照：「西六いまむかし」）

② 新町橋

江戸時代の新町廓は、北は立売堀南通り、南は長堀通り、東は西横堀（四つ橋筋）、西は現在の新町2丁目あたりの塀で囲まれた地域で、ここに遊女たちが閉じ込められていた。外界との出入りには東口大門と西口大門が開かれていた。東の大門の先、西横堀川に架かる橋が新町橋で、寛文12年（1672）の創建。大門の通りを瓢箪町と言ったので、瓢箪橋とも言われ、船場の商人街、道頓堀の芝居小屋と結ぶ唯一の通路であった。順慶町、心斎橋から新町へ、通う人の群れを当て込んで一六の夜店がたった。これは戦前まで大阪名物といわれて続いていた。

③ 西六（さいろく）平和塔

満州事変から太平洋戦争への出征や空襲で亡くなったこの地区の人々を慰霊するために昭和33年に地区連合会によって建てられた。西六（さいろく）とは、西区で北の西船場、江戸堀、靱などから6番目の地区になるという意味で名付けられた地区名（もともとは小学校区）。立売堀、新町、西長堀の３町よりなるが、どれも由緒ある古名で代表名を決められず、西六となった。

④ 新町のお茶屋

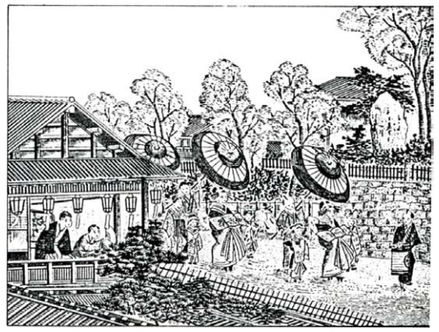
新町廓の揚屋では、吉田屋、高島屋、茨木屋などが大きく、置屋では扇屋（東・中・西）、くらはしや、つちや、つの井などのお茶屋があった。17世紀後半には2200人の遊女がひしめいていたといわれる。繁華だったのは、伏見町の遊女屋を移した瓢箪町と玉造の九軒茶屋が移ってきた九軒町などである。瓢箪町に扇屋が３軒、九軒町に吉田屋があった。新町は江戸の吉原と並んで高級花街であり、お茶屋は高級武士や富豪商人の社交の場でもあった。

⑤ 夕霧太夫

女郎には、太夫、天神、鹿子位、端女郎の位階があった。扇屋の夕霧は歴史上もっとも有名な太夫として名を馳せている。本名はお照。京都東山の生まれで、京都嶋原の扇屋に抱えられていたが、扇屋が大坂新町に引越したときに夕霧もやってきた。このとき19歳。「神代このかた、また類なき御傾城の鏡」（西鶴「好色一代男」）とされるほどの美形で「しとやかな格好で肉つきよく、地顔でも色白く、すがめでも情深く、酒も飽かず飲み、歌ふ声も好く、琴三味線に通じ、文句気高く、長文書き、物ねだりせず、人に惜しまず、手管に長けて、浮名が立つと止めさせ、のぼせあがると理をつめて遠ざかり、身を思ふ者には世間のことを意見し、女房のある者には合点させ、魚屋、八百屋までよろこばせた」（同）という。こうして、夕霧は、吉原の高尾、嶋原の吉野と並んで三大名妓といわれるようになった。しかし、大坂へ来てわずか6年後、病に倒れて25歳の短い一生を終えた。延宝6年（1678）の正月6日である。墓は下寺町浄国寺。鬼貫が「この塚は柳なくてもあわれなり」という句をおくっている。歌舞伎では坂田藤十郎が「夕霧名残の正月」を舞台にかけた。33回忌には近松門左衛門が浄瑠璃「夕霧阿波鳴渡」を書き、その名を不朽のものとした。記念碑が新町北公園にある。

⑥ 新町九軒桜堤跡の碑

近松の「夕霧阿波鳴渡」に登場する吉田屋は九軒町にあり、道路沿いに桜堤の石垣があって、人々は遊里の夜桜を楽しんだ。その堤はこの碑の辺りからなにわ筋を越えて、吉田屋があった現フーセンウサギ本社屋の南側道路へ続いていた。夜桜見物は昭和初期まであったという。


新町桜の景（銅版画）明治21年 日本名所図絵（参照：「西六いまむかし」）

⑦ 千代女の句碑

（だま）されて来て　（誠）なりはつ桜

もとは九軒町の西端にあったが、何度か移転され、現在は北公園にある。九軒町の東端には芭蕉の次の句碑があったが、戦災で行方不明になったままだ。

春の夜は　桜にあけて　しまいけり　　芭蕉

⑧ 初世中村鴈治郎生誕の地碑

幕末のころ（万延元年・1860）、扇屋のひとり娘・妙（たえ）と店に出入りしていた歌舞伎役者・三代目中村翫雀との間にできた子が、後に関西歌舞伎界を支える初代中村鴈治郎である。「心中天網島」の治兵衛を演じて「頬かむりの中に日本一の顔」と言われた名優。その三男が二代目鴈治郎、その長男が三代目鴈治郎でいまの四代目坂田藤十郎、人間国宝。初代鴈治郎生誕の地の碑が北公園の南西角にある。

⑨ 新町演舞場と新派壮士芝居

戦争で焼けるまで新町演舞場は新町廓の芸妓たちが踊りを披露した舞台であった。春の浪花踊は京都の都をどりと同じで、大阪の春を告げた。戦災後、演舞場は書籍取次業の大阪屋となったが社屋の一部に演舞場の外観がそのまま残されている。新町演舞場はかつて高島座、そして新町座といい、木造の芝居小屋で新派劇発祥の地である。角藤定憲は21歳のとき旧派歌舞伎に対抗して新派を唱え、改良演劇として自由民権運動の政治批判の壮士芝居をここで演じてみせた（明治21年）。明治の新興演劇は大阪の新町から起こったのである。

新町演舞場（参照：「西六いまむかし」）

⑩ 砂場跡の碑（麺類店発祥の地碑）

秀吉が大坂城を築城したときに、大坂の各地に資材置き場が設けられたが、新町には砂類の蓄積場があった。工事関係者が多く集まり、その人々に麺類を提供する店「いずみや・津の国屋」などが開業したと古文書にある（天正12年・1584年）。本邦麺類店発祥の地であるとして、大阪のそば店誕生四〇〇年を祝う会が建立した碑が新町南公園にある。

⑪ 長堀グリーンプラザの橋名板や記念碑群

西長堀川は　昭和48年（1973）6月に埋め立てられて道路になった。寛永2年（1625）に掘られてから348年の川の歴史を閉じた。その名残の橋の名板や記念碑が長堀通りの中央緑地帯・長堀グリーンプラザにいくつも残されている。白髪橋から西へ、大阪木材市売市場の碑、問屋橋の名板、富田屋橋の名板、間長涯天文観測の地の碑、西大橋の名板、そして四ツ橋記念碑と上繋橋・下繋橋・吉野屋橋・宇和島橋の記念碑などである。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。